

平成 23 年度

《第 3 回》

国語

時間 50 分、100 点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

一、次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

「ことばの4条件

A 発声学習ができる（すぐにア真似^{せい}ができる）

B 音（単語）と意味が対応している

C 文法がある

D 社会関係のなかで使い分けられる（敬語が適切に使える）

人間は、はじめて聞いた音声でも、真似して発音することができます。これが「ことばの4条件」の一一番目でした。耳から聞いた音声を真似て発音することを「発声学習」といいます。発声学習の能力がなければ、ことばを学ぶことはできません。

いっぽう、①動物はどうでしょう。多くの動物は、生まれつき出せる鳴き声が決まっており、新たな鳴き声の出し方を学ぶことはできません。「Ⅰ」、犬に「おすわり」というとおすわりしますが、「おすわり」と言い返すことはできません。犬には発声学習はできないのです。

【 ① 】

②発声学習の能力をもつことがはつきりしている動物は、オウムなどの鳥類、イルカやシャチなどの鯨類、そしてヒトです。鳥類は約一万種類のうち約五千種が発声学習の能力をもちます。私たちが研究対象としているジユウシマツも、発声学習します。鯨類も、ほとんどが発声学習できます。

「Ⅱ」、サルの仲間であるイ靈長類^{れいじょうるい}のなかでは、ヒトだけしか発声学習ができません。これはウフシギなことです。

発声学習できる動物とできない動物とでは、どこがどう違うのでしょうか。

じつは、発声学習できる動物には「息を止めることができる」というエキヨウツウ点があります。「そんなの、犬やネコだってできるだろう」と思うかもしれませんが、イヌもネコも息を止めることはできません。「Ⅲ」サルもウマもシカも、発声学習しない動物はみな、自分の意思で息を止めることができないのです。一方、発声学習できるオウムや九官鳥、イルカ、クジラ、ヒトなどは、自分の意思で自由に息を止めたり吸つたりできます。

なぜ発声学習できる動物だけが自由に呼吸を制御^{せいぎょ}できるのでしょうか。その理由として、「息を止める機能を持つことで、（ ② ）」からだと考えられます。

鳥は上空をオヒコウ^{オヒコウ}するとき、強い風にあおられたりして、思うように空気を吸えなくなることがあるでしょう。クジラは水中では息を止めなければなりませんから、潜水するとき、空気を一気にたくさん吸いこみます。③そのため、呼吸をコントロールする機能が発達したのだと考えられます。

自分の意思で自由に息を吸つたり吐いたりできる能力があれば、鳴き声を自由にコントロールすることができます。④だからこそ、発声学習も可能になるのです。

問一 太線部ア～オのカタカナは漢字に、漢字はひらがなにそれぞれ直しなさい。

問二 「I」「III」に入る接続詞をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

問三 ア あるいは イ しかし ウ たとえば エ つまり オ ところで

答えなさい。但し、「動物は…ということ」という形で書きなさい。

問四 一 ① には以下の文が入ります。適切な順番に次の選択肢を並び替えなさい。

ア たとえばオウムや九官鳥に「おすわり」と言つてもおすわりしないかもしれません

イ つまり、オウムや九官鳥は「ことばの4条件」の一番目、「発声学習する能力」を

もつてているということになります。

ウ しかし、オウムや九官鳥は人間のことばを真似する能力があります。

エ オウムや九官鳥は「おすわり」という鳴き声の出し方を学習できるのです。

問五 傍線部②「発声学習の能力をもつことがはつきりしている動物」とありますか、これら

の動物に同様に言えることは何ですか。本文中から十一字で抜き出しなさい。

問六 一 ② に入る文として適切なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

ア 生存に有利になつた

イ 天敵から隠れられるようになつた

ウ 繁殖で優位に立てた

エ 鳴き声が多様化した

問七 傍線部③「そのため」とありますが、どのような理由ですか。説明として適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 上空にいる際、思うように空気を吸えなくなる時に適応するため。

イ 潜水する際、空気を一気にたくさん吸い込むため。

ウ 鳴き声を自由にコントロールするため。

エ 発声学習できる動物たちが、それぞれの環境に適応するため。

問八 傍線部④「だからこそ、発声学習も可能になるのです」とありますが、ここから筆者

者が伝えたいと考えられるものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 発声学習ができるようになり、呼吸をコントロールできるようになつた。

イ 呼吸をコントロールできるようになり、自由に息を止められるようになつた。

ウ 発声学習ができるようになり、呼吸をコントロールできるようになつた。

エ 呼吸をコントロールできるようになり、自由に息を止められるようになつた。

問九 次の会話は「ことばの4条件」のDの条件に当てはまつていません。Dの条件に合

わせて傍線部を適切な表現に直しなさい。

先生 きみの旅行記は実際にエクセレントだった。
生徒 えつ。これを見たんですか。ところで、エクセレントってどういう意味なの。

二、次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

小学六年生の主人公の僕と竹ちゃんは、小学生最後の夏休みに、手作りヨットで無人島に行くことを計画していた。ヨット造りをしていると造船所の大木さんが顔を見せた。

「あのボロ舟がこげんなるとは思わんかった。いやー、見事。あっぱれ。うちの若いもんより、よつばと腕がいい。きっと舟も喜んじよるやろう」

大木さんはヨットの船腹を撫でさすりながら、しみじみと言う。
「これで分かつた。あんときおまえらが俺に、なんべんもヨットと呼んでくれと言うたわけがよう分かつた。これはボロ舟でも伝馬船でもない。おまえらの言うとおりヨットや。正真正銘のヨットや」

A 目頭が熱くなつた。ここまでその道のプロが言つてくれようとは、思つてもみなかつた。①僕は震える思いで竹ちゃんを見た。誉められたのに、アイガイに冷めた表情をしている。なにか考えているようだ。竹ちゃんは一步前に出ると、イレイセイな声で言つた。「マストにはカーテンレールをつけようと思うります。だけんど、どうやつて丸いもんに平たいもんをつけたらいいか分からんとです」

今度は僕らが唸る番だった。職人の熟練とはこういうのを言うのだろう。竹ちゃんがすべてを言い終わらないうちに、大木さんはマストの丸太を角材の上に置くと、カスガイで軽く固定した。墨壺で丸太の表面にカーテンレールの幅の二本線を引くと、いつたん小屋を出ていき、戻ってきたときには手に丸鋸を携えていた。

②僕は大木さんのさりげない優しさに胸を打たれた。

(中略)

「ところでおまえら、こんヨットでどこに行くとか」

竹ちゃんがB () を張つて答える。

「宝島」

僕らは同時に玄界灘の沖を指さした。

「なんか初島かあ。あすこにはなんもないぞ。宝どころか水もないぞ」

「そんなん分かつちよる」

「そうか、それならよかばつてん、③ひとつだけ忠告しとくぞ。これはヨナ爺のほうが詳しいかもしけんが、初島の手前に潮の流れのきついとこがある。それに、流れは朝と晩じや逆になる。それから帆で走る場合は、島のウ風下に入つたとき、気をつけることや。風

が巻き込むように吹くから、帆桁が急に逆に振れて、頭打つおそれがある。頭打つて、海に落ちたら、フカの餌になるぞ。いいか、くれぐれも海を甘く見るんじゃないぞ」
大木さんは手拭いでエビタイの汗をふきつつ、ヨナ爺とともに小屋を出ていく。二人の楽しげな話し声が、弾けるように閃いては消え、また閃いては次第に遠ざかっていく。その声に耳を傾けながら、僕は突然、激しい嫉妬に襲われた。

「あん子、名前はなんち言うとな」
「うちの親戚の子な」

「そう。鼻つ柱の強い子たい」

「竹雄、野上竹雄」

「なら、そん竹雄に言うてくれんな。中学出たらうちの造船所でオハタラくように言うてくれんな。あん子はきつともになる。いや、舟に関しては天才かもしけん。なんなら、

うちの造船所から大学にやつてもいい」

「言うには言うけんど、うんとは言わんやろうな」

「なしてな」

「あん子の夢は海賊になることと、ヨットで世界の海を放浪してまわることやもんな」

「そりやまたけつこう。④ますます惚れこんだ」

「あん子のどこがいいとな」

「目、目がいい。目が生きちょう」

懸命に耳をそばだてたが、とうとう僕の名前は出てこなかつた。悔しさを必死にこらえて、⑤僕は大木さんになるのをその場で諦めた。竹ちゃんが呼んでいる。しかし、どうしても返事することができなかつた。

（『ニライカナイの空で』 上野 哲也）

問一 太線部ア～オのカタカナは漢字に、漢字はひらがなにそれぞれ直しなさい。

問二 二重線部A・Bについて、それぞれ質問に答えなさい。

① A 「目頭が熱くなつた」の意味として適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 深く感動すること。 イ 驚き、喜ぶこと。

ウ 怒りにふること。 エ 喜び、恥ずかしがること。

② B 「（ ）を張つて」とありますか、文の意味が通るよう、（ ）に体の一部を表す漢字を入れなさい。

問三 波線部「固定した」の主語を抜き出しなさい。

問四 傍線部①「僕は震える思いで竹ちゃんを見た」とありますが、この時の僕の思いの説明として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 困つたので竹ちゃんに助けを求める。 イ 泣きそうな姿を見せたくない。

ウ 竹ちゃんが怒つてないか確認したい。 エ 竹ちゃんと嬉しさを共有したい。

問五 傍線部②「僕は大木さんのさりげない優しさに胸を打たれた」とありますが、なぜですか。三十字程度で答えなさい。

問六 傍線部③「ひとつだけ忠告しとくぞ」とありますが、その忠告内容として、最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ヨナ爺の方が自分よりも詳しく知っているということ。

イ 初島の手前は潮の流れのきつく、潮の流れは朝と晩では逆になること。
ウ 島の風下に入つた時、風が巻き込むように吹くということ。

エ 海を甘く見てはいけないとということ。

問七 傍線部④「ますます惚れこんだ」とありますが、なぜ惚れたと考えられますか。理由として適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 現実的な職よりも、叶うかわからぬ子どもらしい夢を応援したいと思つたから。

イ 誘いを断つても、自分の夢をかなえようとする強い気持ちを気に入つたから。

ウ 隠で「僕」が聴いていることに気づいており、「僕」を心配させたかったから。

問八 傍線部⑤「僕は大木さんになるのをその場で諦めた」とありますが、次の文はその説明です。（ ）に入る言葉をそれぞれ指定字数で抜き出しなさい。

僕は、大木さんが竹ちゃんを誉めたが、（①【四字】）を口に出さなかつたことが悔しく、大木さんと竹ちゃんに対する、（②【十字】）から。